様式３

第25回　全国街路事業コンクール応募資料

平成25年2月

応募者名：愛知県

事業の名称：太田川駅付近連続立体交差事業

（名古屋鉄道常滑線・河和線）

実施都市名：愛知県東海市

事　業　目　的

中部国際空港や知多半島の主要都市を結ぶ名鉄常滑線及び河和線は東海市の発展に重要な役割を果たしてきたが、車社会の到来により踏切遮断による交通渋滞を起こし、鉄道による地域の分断等市街地の健全な発展の支障となっていた。そこで、こうした状況を解消し、都市交通の円滑化と健全な都市機能の発展を図るため、名鉄常滑線尾張横須賀駅及び河和線高横須賀駅付近を1期、2期事業として高架化し、常滑線と河和線のターミナル駅である太田川駅付近を3期目の連立事業として高架化するとともに、太田川駅周辺では土地区画整理事業や市街地再開発事業を進め、東海市の「顔・玄関口」にふさわしい中心市街地を形成することを事業の目的としている。

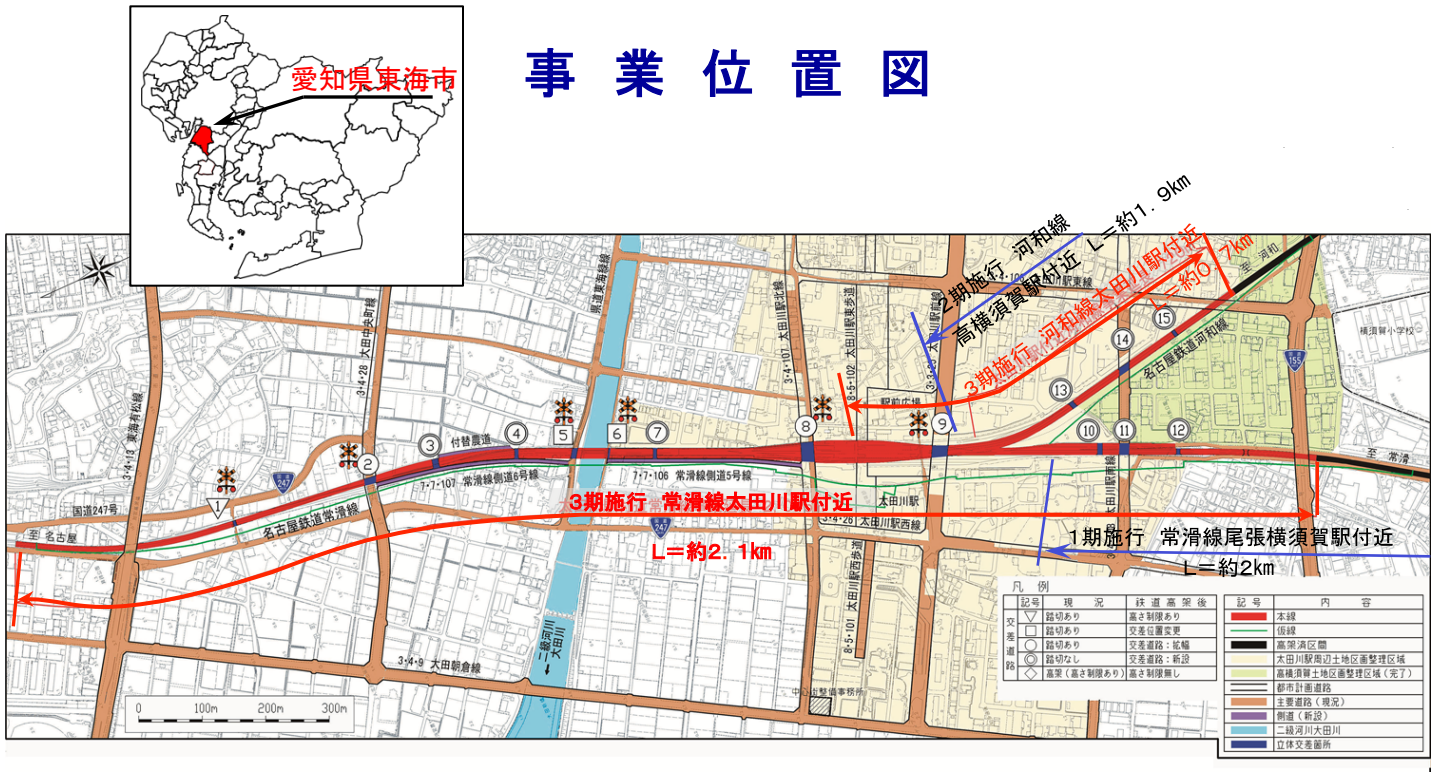
事　業　概　要

事業名称：太田川駅付近連続立体交差事業
路　線　名：名古屋鉄道常滑線・河和線
事業箇所：愛知県東海市
踏切除却数：6箇所
立体交差道路数：13路線15箇所
事業延長：約2.8km　　事　業　費：約393億円
事業実施期間：平成１０年度～平成２３年度

本事業は、1期施行の名鉄常滑線尾張横須賀駅、2期施行の河和線高横須賀駅に続く3期目の連立事業であり、常滑線2,045m及び河和線720mの鉄道を高架化し6箇所の踏切を除却するとともに、13路線の交差道路を整備するものです。

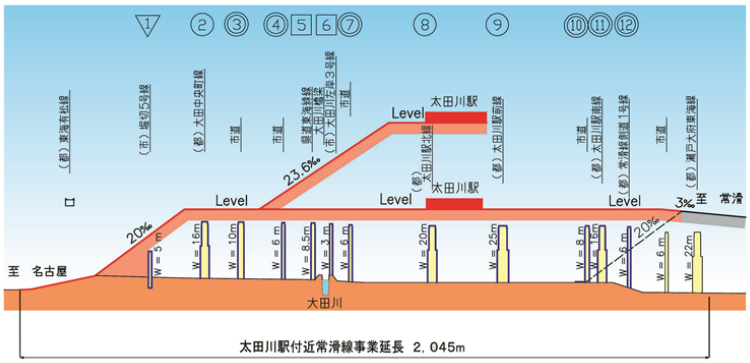
また、太田川駅周辺土地区画整理事業及び太田川駅西地区市街地再開発事業を連立事業とあわせて実施し東西一体の市街地の形成を図ることにより、東海市の「顔・玄関口」にふさわしい中心街を形成することとしています。

事 業 位 置 図

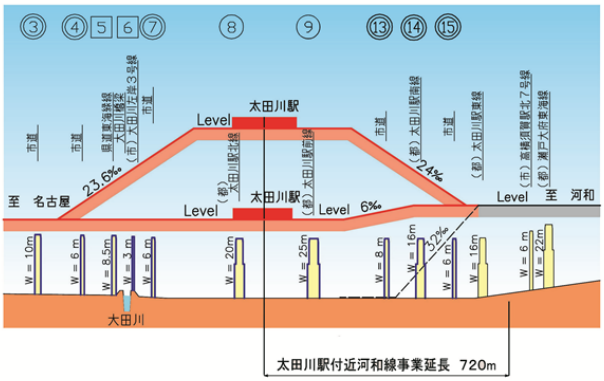


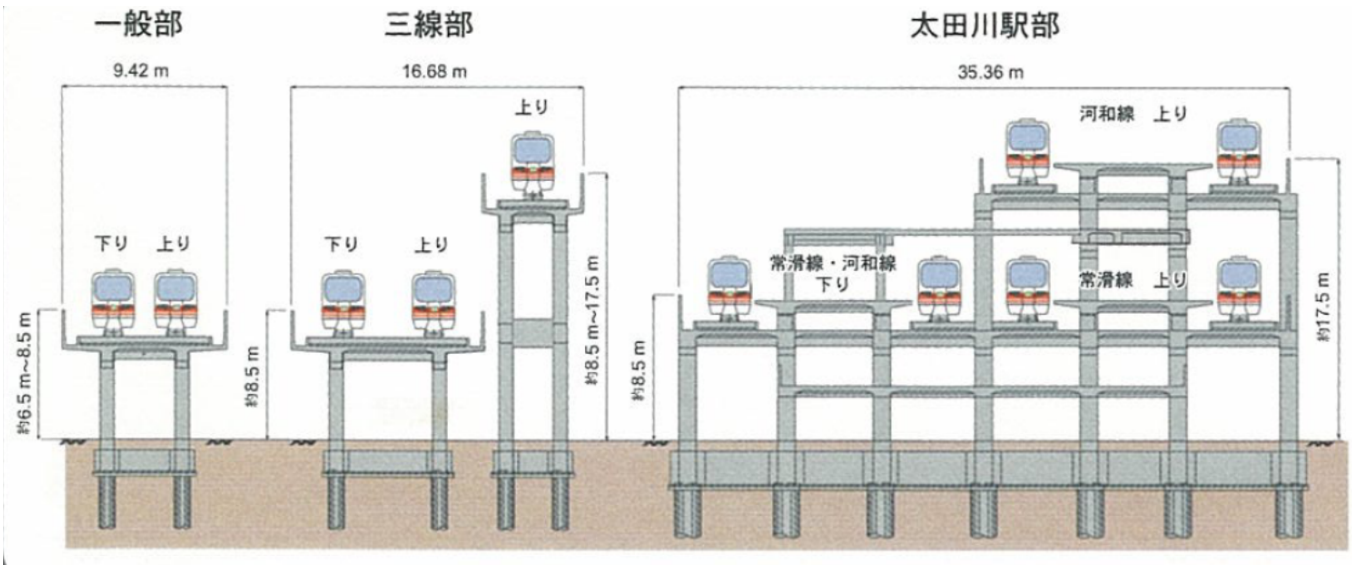
全体図（平面図・側面図・横断図）

常滑線縦断図



河和線縦断図





名古屋鉄道常滑線・河和線太田川駅付近連続立体交差事業の整備効果アピール資料

○事業概要
事　業　名：名鉄常滑線・河和線太田川駅付近
　　連続立体交差事業
事業箇所：愛知県東海市
事業延長：約2.8km
踏切除却数：6箇所
立体交差道路数：13路線、15箇所
総事業費：約393億円
事業期間：平成10年度～平成23年度

○踏切事故の解消
〇踏切遮断時間の解消
太田川1号踏切
着手前：約41分⇒完了後：0分
新日鉄前11号踏切
着手前：約38分⇒完了後：0分

「整備効果」
Ⅰ東西道路交通の円滑化
　鉄道高架化により太田川駅周辺の交差道路箇所が15箇所となり、更に6箇所の踏切が除却されることから悲惨な踏切事故及び踏切遮断による交通渋滞が解消する。
Ⅱ交通結節機能の向上
　駅を2層構造から3層構造へスリム化したことにより駅前広場等の面積が広がり、バス等の乗降がスムーズになるとともに、50m幅員の歩行者専用道や憩いの場を創出。
「その他の事業効果」
Ⅲ中部国際空港アクセスの強化
　鉄道高架化により名鉄常滑線及び河和線の平面交差が解消され名古屋～中部国際空港間の運行がスムーズになるとともに、15箇所の踏切が1期及び3期の連立事業により除却され空港アクセスとしての信頼性が増す。
Ⅳ民間活力の導入
　太田川駅周辺では、東西を往来する道路が整備され利便性が向上し、商業施設、大学（日本福祉大学）及び集合住宅が立地するなど更なる民間活力の活性化が期待される。

事 業 前 写 真

平成9年1月頃撮影

名古屋鉄道常滑線・河和線太田川駅付近全景

平成11年4月撮影

東側駅舎及び駅前広場

平成11年4月撮影

交差道路（(都)太田川駅北線）

平成16年12月撮影

交差道路（県道東海緑線）

事 業 後 写 真

平成24年3月撮影

名古屋鉄道常滑線・河和線太田川駅付近全景

平成24年3月撮影

東側駅舎及び駅前広場

平成24年3月撮影

交差道路（(都)太田川駅北線）

平成24年3月撮影

交差道路（県道東海緑線）